



学校運営協議会だより

(コミュニティスクール)

令和4年9月21日

第66回 令和4年度第3回 学校運営協議会

令和4年9月15日

(野上会長ごあいさつ)

前回に引き続きお忙しい中、16時からの開会にも関わらず、多くの方に参加していただき、感謝しております。今日は生徒会役員の生徒との意見交換ということで、生徒会役員のみなさんとの懇談を行います。その後、地域移行の部活動について、教育委員会からの説明と意見をいただき、校長から不登校の状況についての内容です。忌憚ないご意見をいただき、良い会になりますようお願い申し上げます。

(神田教育長ごあいさつ)

先日の体育会は3年生の様子を見ましたが、リーダーの生徒自身の声かけに他の生徒たちが動いている様子を見て、自主的な取り組みとなっている様子が見られ、どの生徒も積極的に取り組んでいる様子から素晴らしい体育会となっていました。

(校長あいさつ)

夏休み明けから、新型コロナウイルスの感染状況もあるが、子どもたちは2学期はじめから、本当によくがんばってくれている。先日の体育会も、どの学年も練習の段階からリーダーシップを発揮する生徒もおり、学年別で行う体育会ではあったが、本当によくがんばった。体育会で得られた団結力や協力する心などの成果を、今後の実際の教育活動に生かしていきたい。



【生徒会からの報告】

◎他中の生徒会との交流で行った環境の面からクイズ形式での勝央中の紹介と、生徒会の具体的な取り組みについて紹介がありました。

- ・ノーマディアの取り組み
- ・あいさつ運動
- ・校歌を歌う取り組み
- ・部活動のキャプテン会の取り組み
- ・ピアサポート活動の取り組み

《意見交流》

- ・あいさつ運動など、自分からあいさつができる取り組みをすごいと思いました。
日頃の登下校でも、自分からあいさつができるようにしてほしい。
- ・コロナ禍の最中で中学校生活を送られてきましたが、ピアサポート活動で助け合う活動を紹介された。みなさんの経験で、友達に支えられた経験があれば教えてください。
→3年生は、ソーラン節を1・2年生から取り組んでいたが、今年は1・2年生にソーラン節を教える場面があり、教え方など悩みながら教えたが、1・2年生からこれからもソーラン節を続けていくという意見からピアサポート活動をやってよかったと思いました。
- ・<生徒会から>あいさつ運動を私たちと一緒にやらせてもらえませんか？ 地域の人とのつながりを持っているので、可能なら地域の人とともにあいさつ運動を行えるといいなと考えています。
- ・準備など大変で、今日の緊張感もいい経験でしょう。一緒に過ごす場を持ってとてもよかったと思います。みなさん方から、学校運営協議会に対して、通学路を変えてほしいとか、何か意見やよりよいことがあれば、意見を上げてもらって、何かよりよい方法に向かって一緒に相談していきたい。
- ・中学生には自分たちの安全を自分たちで守るためにも登下校の交通マナー、ルールを守ってほしい。
- ・町の行事も多くあるので、いろいろなボランティアや会に参加して小学生とともに過ごす経験をしてほしい。



【協議・審議について】

(1) 学校の現状と課題



○部活動について(神田教育長)

今年度、文部科学省から部活動の地域移行という方向性がはっきり示された。少子化の影響や教師の働き方改革の進展、スポーツで地域を盛り上げるなどの視点から、子どもたちのスポーツの機会を学校主体の取組から地域主体の取組へ移行することへの、問題や課題を説明された。

令和4年～土日の部活動の地域移行をすすめているが、いずれは平日の部活動も地域移行となる。

今後は、施設使用の問題や指導者の指導手当の問題があり、受益者負担という考え方のもと、保護者の経費負担が増えるのではないかと問題がある。スポーツの機会が減ることで、体力が落ちるのではないかと心配もある。

《ご意見より》

・地域移行になると、施設の問題もあるし、現在の部活動数の確保は難しいと心配している。保護者の負担も増え、スポーツすることも減るのではないかと心配している。財源は保護者からの負担が増えないように、国の要請で地域移行するのなら、国の財源で保証するのは良いのではないかと。大会の参加についても今後多くの検討課題がある。

→今後は学校中心ではなく、地域スポーツに力を入れるというのが国の方向性である。

ただし生徒にとっては、中学校から出場するのか、地域スポーツクラブから出場するのかなど、上手な生徒とレギュラーになれない生徒の出場機会など難しい問題はある。

・教員の過重労働や時間外勤務が問題視されている。本来すべき、こどもの学習に向き合い、子どもたちの諸問題に寄り添う時間を教員に増やそうというのが、本来の趣旨ではないか。

・部活動に入らないことで就職したあとに、チームワークや協力は大切なことが身につけていないことを心配している。

○不登校について(竹内校長)

不登校の問題は全国的にも岡山県でも重要課題で、理由は個々によってさまざまである。本人の不安・生活リズム・学業・集団適応・対人的な適応など複数の理由が重なる場合もある。中学校の対応としては、家庭訪問、本人・保護者と面談・相談、スクールカウンセラーの紹介、関係機関との連携など。登校を強いるのは逆効果となることもあるため、中学校でケース会議を開いて、個別の対応をしている。鶴山

塾への紹介、医療機関と連携、SSW と福祉の面からの対応も取り入れている。特に今年度は、加配教員を配置され、町からも支援員を配置していただき、別室(S ルーム)を設置して、教室復帰に向けての居場所づくりを進めている。

それ以外に、登校はするのだが、教室内にいることがむつかしく、いろいろな場所に行くような行動をする生徒もいる。保護者とも連携して、その子のペースに応じてできるところから学びに取り組ませることを進めている。

《ご意見より》

・小学校からのつながりで、すぐに不登校が改善することはないかもしれないが、一番つらいのは子ども自身である。不登校の家族が、不安やストレスから不安定になることもある。町公民館でもほっこりサロンという、休みがちな生徒の保護者同士でつながりを持てる場面も設定している。

・学校がチームでの対応・外部組織とのつながり・行政からも支援員や加配などさまざまな支援をしていただいてありがたいと思います。学校にいけない理由は、生徒自身もわかっていない場合もあるのでさまざまなところにつながったり、多くの人が相談したりして、少しでも改善していくことが大切なのではないでしょうか。一番よくないのは、無支援状態なので、良く対応していただいていると思います。

○その他

・生徒会のあいさつ運動に学校運営協議会の委員が参加することについて

中学校の生徒会のあいさつ運動は、不定期に開催されているが、いかがでしょうか。

→全員そろわなくても、できるときに参加するという形でいかがか。



・生徒会があいさつ運動の実施される日を、学校運営協議会のメンバーに事前にメールすることで、可能な方が参加する方法で実施することに決まりました。

次回の日程確認

11月22日(火) 19時から

長時間にわたり活発な熟議をありがとうございました。

今後の課題も意見交換の中から見つかり有意義な会になりました。